

第1学年 生活科学習指導案

平成24年6月15日(金)

陵南小 2組 男子13名, 女子13名, 計26名

指導者 味園 佳奈

1 単元 げんきにそだて

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、幼稚園や保育所等から小学校に入学して約2か月が過ぎ、新しい先生や友達との関わりを通して、安心して学校生活を過ごせるようになってきている。また、上級生から掃除の仕方を教えてもらったり、学校探検の活動を行ったりすることなどを通して、学校生活の楽しさを味わいながら少しずつ学校の様子が分かるようになってきている。そして、人と適切な関わり方ができるようになっている。さらに、2年生から大切に育てたあさがおの種をプレゼントされたり、手紙をもらったりして『自分もあさがおを育ててみたい』『きれいな花を咲かせたい』という思いや願いをもつようになってきている。

そこで、本単元では、あさがおの種まきや水掛け、支柱立て等の活動に、子どもたちが主体的に取り組むことを通して、自分の思いや願いを実現していく満足感を味わいながら、活動への意欲をより高めようとするものである。また、見たり、触れたり、嗅いだり等、様々な感覚を駆使してあさがおと関わる中で、成長の様子に気付き、友達と気付いたことを伝え合ったり、絵本や図鑑で調べたりして世話ができるようにするものである。そして、あさがおは自分と同じように生命をもっていることに気付くようにするものである。

これらの活動を通して、子どもたちは発芽や開花等、心が揺さぶられる経験を数多く味わい、想像力を豊かにしていく。また、この学習で培った力は「生き物となかよし」での世話の仕方や観察の仕方等の活動に生かされ、生命あるものを大切にしていこうとする心情を育んでいくものである。

(2) 指導の基本的な立場

あさがおは成長の変化や様子が捉えやすく、子どもが様々な気付きを深めながら世話をすることができる植物である。夏には数多くの花を咲かせ、色水遊びや押し花等、子どもの遊びを展開できるとともに、数多くの種が獲れることから、生命の連続性に気付いたり、子どもたちの成就感や関心を持続させたりすることができるものとする。

このようなあさがおを育てる活動に子どもたちが主体的に取り組み、あさがおや友達との関わりを深めるために、見たり、触ったり、嗅いだり等、様々な感覚を駆使した栽培活動を通して生まれる気付きを大切にするとともに、あさがおの生命の連続性についても考えさせるようにしていきたい。

具体的には、「あさがおのたねをまこう」の活動で、あさがおの種をじっくりと観察したり、どんな花が咲くのか、育て方はどのようにしたらいいのかを話し合ったりすることで、あさがおの栽培への意欲を高めたい。次に、あさがおが発芽したり、葉が出てきたりしたときに、発芽の様子や葉の変化の様子をじっくりと観察できるように、観察の時間を確保し、気付いたことに対して価値付けを行っていききたい。そしてつるが伸びて友達のあさがおと絡まるようになったときに、どのようにしたら友達のあさがおと絡まらないようになるかを考えるようにするとともに、これまで育てた植物が上へ上へと伸びていく成長の様子に関わってきた経験をもとに、支柱を立てることの必要性に気付くようにしたい。さらに、日常的にあさがおとの関わりが持続するように環境を整え、あさがおの花が咲いたときに、自分の花を観察したり、遊びに活用したりして、自分のあさがおの花が咲いた喜びを存分に味わえるようにしたい。また、種を収穫する活動では、獲れた種の数を数えることで、一つの種からたくさんの種ができることに気付くようにし、道徳の時間と関連を図りながら、生命の素晴らしさを実感できるようにしたい。

なお、活動の展開においては一人一人に応じた援助を行い、互いのよさに触れ合う場を設定したり、学習したことを生かせるような働き掛けを行ったりして、活動が連続・発展するようにしたい。

このような活動を通して、子どもたちは活動に没頭し、活動に対する成就感や満足感を味わうとともに、自分のよさや成長を実感する中で、自分への自信を深め、生活をよりよくしていこうとする意欲を一層高めることができると思う。

(3) 子どもの実態 (対象者 1年2組 26名, 数値は延べ人数 面接法)

ア	あさがお栽培への意欲
○	育てたい…26人
イ	これまでの栽培経験
○	植物を育てたことがある。はい…26人
	・あさがお ・ミニトマト ・ピーマン
	・なすび ・チューリップ ・さつまいも
	・ひまわり 等
○	一緒に育てた人(複数回答)
	・先生…13人 ・保護者…7人
	・友達…8人 ・自分で…4人
○	あさがおを育てた経験
	ある…17人 ない…9人
○	植物の世話について必要なこと(複数回答)
	・水をあげる…26人 ・肥料をあげる…1人
	・草を取る…2人 ・話しかける…1人
○	困ったときの対処法
	・先生に聞く…17人 ・お母さんに聞く…4人
	・だれかに聞く…3人 ・図鑑で調べる…1人

本学級の子どもたちは、あさがおの種をもらい、あさがおを育ててみたいという願いを全ての児童がもっている。

これまで、子どもたち全員が何らかの植物を育てた経験をもっている。育てた植物も花や野菜等多岐にわたっており、これまでの生活経験から、子どもたちなりに感動を味わったり、世話の仕方を身に付けたりしてきている。その一方で、植物の世話の仕方でも水をあげることに気付いている子は多いが、日光に当てることや支柱を立てることに気付いている子はいない。

そこで、芽や葉が出たり、つるが伸びたり、花が咲いたりしたときなど、成長の過程の中で、どのような世話が必要かを考えていくことを大切にしていきたい。その際、様々な感覚を駆使して、じっくりと関わるようにしていくことで、より一

層多様な気づきをもてるようにしていきたい。また、一人一人の気づきに寄り添い、伝え合う場を設定していくことで、互いに感動を共有したり、気づきの質を高め合えるようにしていきたい。

(4) 指導上の留意点

ア 「たねをまこう」の活動では、あさがおを育てたいという意欲を高めるために、2年生からもらった種を観察することで、種の特徴を捉えられるようにしたい。また、これまでの経験を基に種のまき方や世話の仕方について話し合い、価値付けていくことでこれから一人一人がどのようにあさがおに関わっていけばよいか受け止められるようにしたい。

イ 「めがでたよ」の活動では、発芽や葉の特徴を捉えることができるように、見たり、触ったり、嗅いだり等、様々な感覚を駆使してあさがおと関わるようにするとともに、観察カードを活用して感動を記録していくようにしていきたい。また、自分が気付いたことや困ったことを伝え合う中で、自分や友達の間わり方のよさに気付くようにしていきたい。そして、日常的にあさがおとの関わりが持続するよう、世話の仕方を工夫している子どもを紹介したり、絵本や図鑑を子どもがいつでも使えるように環境を整えたりしたい。

ウ 「つるがでたよ」の活動では、あさがおの成長を実感できるようにするために自分との背比べを行うようにしていきたい。また、子どもたちが支柱の必要性に気付くために、どのようにしたら友達のあさがおと絡まらずに、上へ上へと伸びていくのかを話し合い、そのよさに気付くようにしたい。

エ 「はながさいたよ」「たねがとれたよ」の活動では、育てることができた自分に気付くように、一人一人のあさがおへの関わりを称賛していきたい。また、あさがおの花を使った遊びを考える中で、身の回りの草花にも関心が向くように問い掛けをしていきたい。そして、あさがおの生命に気付くように、獲れた種の数や数を数えさせたり、その種をどのようにするかを考えさせたりしたい。さらに、これまでの観察カードを基にこれまでの活動を振り返り、新1年生のプレゼント作りのときに、成長や生命のつながりについてもかけるようにしたい。

3 目標

- (1) 『あさがおを元気に育てたい』という思いや願いを基に、水掛けや支柱立て等の世話をする活動に進んで取り組むことを通して、自分なりの願いの達成に向けて意欲的に取り組むことができる。
- (2) これまでの経験を生かしたり、絵本や図鑑等で調べたりして自分なりに世話ができるとともに、様々な感覚を働かせて気付いたことや分かったことを絵や体で表現することができる。また、自分が思ったことや感じたことを絵や言葉で表現することができる。
- (3) 様々な感覚を使ってあさがおと関わる中で、あさがおの世話の仕方や成長の様子に気付くことができるとともに、あさがおを育てることができた自分のよさや成長に気付くことができる。

4 指導計画（全12時間）

次	あさがお	主な学習活動	教師の具体的な働き掛け
一 たねをまこう (2)		<p>2年生からあさがおの種をもらったよ。うれしいな。ごまみしたいな。育ててみたいな。</p> <p>幼稚園のときにあさがおを育てたことがあるよ。きれいな花が咲いたよ。たくさんお世話をしたよ。</p> <p>あさがおさんが元気に育つためには、どうすればいいのかな。</p> <p>はやく植えてって言うてる！保育園のとき土を準備して種をまいたよ。</p> <p>あさがおさんの健康観察をしながら、水を掛けたり、言葉を掛けたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの経験もとに、どんな花が咲くか、どんな世話をすればいいか話し合う場を作り、あさがおへの関心が高まるようにする。 ○ じっくりと種を見たり、触ったりするなど、様々な感覚を駆使して関わることで、一人一人が多様な気付きをもてるようにする。 ○ 種をまいたことを観察カードにかくことで、今後のあさがおの成長の様子と比べやすくしておく。 ○ 絵本や図鑑を用意しておき、不思議に思ったことなどをいつでも調べられるようにしておく。
二 めがでたよ (3) [本時]		<p>芽が出たよ。うれしいな。ハートの形をしてるよ。</p> <p>8こ芽が出たよ。なんだか窮屈そう・・・。</p> <p>あさがおさんの芽が元気に育つためには、どうすればいいのかな。</p> <p>何本かお引越しをさせてあげたらいいんじゃないかな。</p> <p>葉っぱの数が増えたよ。触ったらざらざらしてる！</p> <p>健康観察をしながら、水を掛けたり、お引越しをさせたりするなどいろいろなお世話をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 芽が出た喜びに共感するとともに、子どもたちが進んで水を掛けたり、言葉を掛けたりするなど、世話をする姿を見守るようにする。 ○ あさがおの芽をじっくりと見たり、触ったり、嗅いだりする等、様々な感覚を駆使して関わるようにすることで、一人一人が気付きをもてるようにするとともに、自分のあさがおに対する愛情も深まるようにする。 ○ 芽や葉が出た様子を観察カードにかき、種のころと比較することで気付きを一層高めていく。
三 つるがでたよ (2)		<p>あさがおさん、上に伸びないで横に広がってる。友達のあさがおさんと絡まってる・・・。</p> <p>あさがおさんが上に伸びていくためには、どうすればいいのかな。</p> <p>支柱を立てると、つるがきゅつと絡まって上へ上へと元気に育つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な感覚を駆使して関わるようにすることで、一人一人が気付きをもてるようにする。 ○ 成長に合わせた世話の仕方があることに気付くように、蔓が出てきたあさがおの様子について話し合う場を作る。 ○ 一人一人のあさがおの関わり方を称賛しながら、あさがおの成長を共に喜ぶようにする。
四 花はながさいたよ (3)		<p>やったあ。花が咲いたよ。きれいだな。ぼくの花は赤いよ。色水を作れるよ。</p> <p>あさがおさんでどんな遊びができるかな。</p> <p>赤い花でりんごジュースができたよ。</p> <p>押し花もできるよ。</p> <p>あさがおでいろいろな遊びができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ あさがおの開花を共に喜び、観察カードにその喜びを表現できるようにする。 ○ あさがおを使った遊びについて話し合い、遊ぶ時間を確保することで、親しみの気持ちが一層深まるようにする。
五 たねがとれたよ (2)		<p>あさがおさんが茶色くなってきたよ。中に種が入ってる。まいたのと同じだ！</p> <p>たねさんは、どんなことを考えているのかな。</p> <p>お世話ががんばったね。ありがとうって言うてる！</p> <p>自分たちも生命をつなげたようにまた、新しい種をまいて、元気に育ててほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 種とりをしたり、種を数えたりする姿を見守るとともに、たくさんの種がとれた喜びに共感していく。 ○ 観察カードを基にこれまでの成長の様子を振り返り、今後、この種をどうするか話し合うようにする。 ○ 道徳の時間との関連を図り、生命のつながりについても考えられるようにする。

5 本時（5／12）

(1) 目標

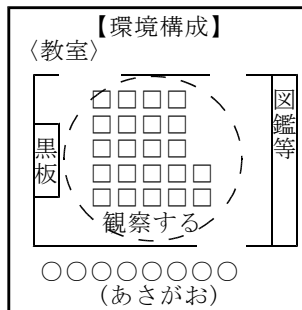
ア 『元気いっぱい大きくなって、きれいな花を咲かせたい』という願いをもとに、あさがおを観察する活動に進んで取り組むことができる。

イ 見たり、触ったり、嗅いだりする等、様々な感覚を駆使して観察することを通して、あさがおの成長に気付くとともに、自分自身や友達の取り組み方のよさに気付くことができる。

(2) 本時の展開に当たって



子どもたちが様々な感覚を駆使して自分のあさがおを観察し、意欲的に栽培活動を進められるように、観察を通して気付いたことを伝え合う場を作ります。また、互いの気付きを比較することで気付きの質が高まるようにします。そして、子どもたち一人一人の活動や気付きを共感的に受け止め、価値付けながら、今後の栽培意欲を更に高めていけるように働き掛けていきたいです。



(3) 展開

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働き掛け
つかむ	1 前時までの活動を振り返り、本時の学習について話し合う。 ・ぼくのあさがおはどうなっているかな。 ・健康観察したいな。 あさがおさんのけんこうかんさつをしよう。	(分)	○ これまでのあさがおの成長を振り返ることで、自分のあさがおをもっとよく観察したいという思いを高めるようにする。
	2 観察の仕方を確かめる。 (よく見る, よく触る, よく嗅ぐ, よく聞く)	7	○ 発芽の頃の様子を掲示し、成長の変化が捉えられるようにする。
みとおす	3 自分のあさがおを観察する。 葉っぱを触ったら少しざらざらしたよ。 新しい葉っぱが出てきているよ。 なんだかお茶の匂いがしたよ。	15	○ 活動への見通しをもてるように、見たり、触ったりする等、様々な感覚を駆使した関わり方のよさを確かめる。 ○ 見たり、触ったり、嗅いだり等、様々な感覚を使って観察することによって得られた一人一人の気付きを共感的に受け止めていくようにする。
	4 観察して、気付いたことを伝え合う。 葉っぱを触ったら、ざらざらしていました。 よく見たら、葉っぱにたくさん毛がついていました。 ほんとだ！よく見たら毛がついてる。ハートの葉っぱはつるつるしてたよ。	16	○ 新たな気付きをもてた子どもには、「どうしてそのことに気付いたのか」等問い掛けていくようにする。
たしかめる	5 これからの成長について話し合う。	7	○ 活動に戸惑っている子どもには、友達の気付きを紹介したり、一緒に観察したりするなどして、自分なりの気付きをもてるようにする。
	6 観察してできたことや楽しかったことを紹介し合う。 健康観察するといろいろ分かるね。 これからもお世話をがんばろう。		○ 気付いたことを伝え合う場を作り、自分の気付きを友達気付きと比べ、確かめたり、もう一度観察したりするなどして気付きの質がより高まるようにする。
ふかめる		7	○ これからあさがおがどのように成長するのか話し合う場を作り、今後の栽培活動への意欲を高めるようにする。 ○ 本時の活動を振り返り、様々な感覚を駆使して観察したことや気付きをもてたことを称賛していく。